gallerism 2007

gallery-ism in art field #4

関西美的解体新書
The Esthetic KAITAI SHINSYO in Kansai

北川雅光 KITAGAWA Masamitsu

五月蝿く茂る雑草を鉛筆で描きます。

ART SPACE NUI

山内亮 YAMAUCHI Ryo

ギャラリー白

一枚の絵から生まれる物語に惹かれ、具象表現をはじめた。
想像の世界の、別の世界の住人達。
やがて描きたいものは物語から人物の表情へと変化してきた。
背景と溶けこむような線や面、筆跡。
形の持つ力と省略と、色そのものが持つ力の関係。
力強く、確かにそこに存在する、そんな表情を描きたい。

黄賢秀 Hwang Hyun-Soo

天野画廊 AMANO GALLERY

1954年生まれ。彫刻家。1978年、国立ソウル大学彫刻科卒業。オリジナルブロンズ彫刻の一点制作を主に、木立に人物を配した静謐な雰囲気を漂わせる作品や、重力に耐えたり、逆らうような力強い作品もある。近年は小鳥や犬などの小動物を配し、民話に通じる趣のある作品の発表を行う。

角谷功次 KAKUTANI Koji

生きている　存在　生死　永遠性　歓喜

Gallery H.O.T

竹垣恵子 TAKEGAKI Keiko

「こころのかたち」をキーワードに
曖昧な感情や想いを「かたち」にしていますが
時間と共に変化する自分の中には
折にふれて、いろんな想いが浮かんでは消えていきます。

楓 Kaede Gallery

阪本龍哉 SAKAMOTO Tatuya

ある日、ある人間がふらりとその魚のもとへ来て
仲良しになり、その魚から見たり聞いたりした事を
聞き、書きとめた。
私はそれを絵に表わす事にした。
できあがった作品をまえに、私たちはニヤニヤしている。
実に奇妙な光景である。

アートスポット ギャラリーマーヤ

益村千鶴 MASUMURA Chizuru

椎木かなえ SHIIKI Kanae

Galleria Ciro Ui atelier

Negative/Art vol.4

Produced by SASAYAMA Naoki

「Negative/Art 展」はプロアマ問わず、参加者達の心中に鬱積した負の感情を
アートを媒介として解放の場へと促していこうという運動です。

GALLERY wks.

内藤絹子 NAITHO Kinuko

ギャラリーAO

谷森ゆかり TANIMORI Yukari

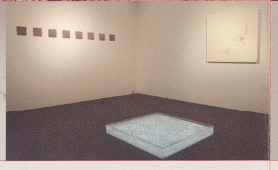
なぜ表現したいのか。何を伝えたいのか。
情景や風景ではなく内側である感情を意識して……

信濃橋画廊

山崎由美子 YAMAZAKI Yumiko

時間の経過とともに変化する事柄を
注意深く観察し記録する。

galerie où



河邊裕美 KAWABE Yumi

いにしえのものつくりたちへの憧憬、
ものまめやかたれと囁く声も
聞こえたりして、
過大と過小のまんなかに　一つ一つ穿つように
身を定めたいと、　点を打っていること、

番画廊

10.29 mon — 11.10 sat

大阪府立現代美術センター　展示室 A・B

開館 10:00—18:00　土曜・最終日は16:00まで　日曜休館　入場無料

寺田真由美 TERADA Mayumi

Gallery OUT of PLACE

NYを拠点に活動。2001年以降一貫してミニチュア(自作)を撮影したモノクロ写真を発表。ロラン・バルトの著書『明るい部屋』のタイトルと主題（「かつてそれはあった」という写真の特質）を引用しながらも、虚実が交錯する仮想空間、そして痕跡（過去)によって残酷に突きつけられる不在（今）が美しい銀塩プリントの中に表現されています。

坂本実十里 SAKAMOTO Midori

LADS GALLERY

血の流れが少しずつ止まった。視覚も聴覚も全ての感覚が崩れ落ちた。
真っ白な骨が粉々になり全て終わった。
人間の強い思いなんか水疱みたいなものでそれ以上に強い者達が何もかも奪い取ってしまった。
悲しいがすごく綺麗な者達だったような気がする。

gallerism 2007

gallery-ism in art field #4

関西美的解体新書　The Esthetic KAITAI SHINSYO in Kansai

京都・大阪・奈良・神戸の現代美術を扱う画廊が集まって開催するgallerism（ギャラリズム）展が第4回を迎えました。今回私たちは、展覧会に「関西美的解体新書」というサブタイトルをつけました。それは、美術家と画廊が一緒になって、新しい表現を切り開くさまを比喩している一方、「解体新書」に込められた変革への挑戦を、私たちの問題として取り込んでいきたいという願いが込められています。翻訳が、出版を通じてはじめて社会的効力を持つのと同様に、美術における新しい表現は、画廊という舞台を経て世に放たれます。そのダイナミズムを、この展覧会で、少しでも感じ取っていただければ幸いです。

アートスペース虹	北川雅光
天野画廊	黄賢秀
楓ギャラリー	竹垣恵子
ガレリア・セロ/ウィ・アトリエ	益村千鶴・椎木かなえ
ギャラリーAO	内藤絹子
galerie où	山崎由美子
Gallery OUT of PLACE	寺田真由美
ギャラリー白	山内亮
Gallery H.O.T	角谷功次
アートスポット ギャラリーマーヤ	阪本龍哉
GALLERY wks.	Negative/Art vol.4 Produced by SASAYAMA Naoki
信濃橋画廊	谷森ゆかり
番画廊	河邊裕美
LADS GALLERY	坂本実十里
encore exhibition	企画展示　瀬戸理恵子

主催：gallerism 2007 実行委員会　協力：大阪府立現代美術センター

ギャラリートーク「小吹隆文、アートを解剖！」

10／29（月）　16:00～／展示室A・B／入場無料

展評、ブログとご活躍の小吹隆文さんをお迎えして、作品の見所やコンセプトについて出品作家と語りいながらアートを解剖して頂きます。（※今回、レセプションパーティはありません。午後6時に閉場）

コンサート「栽培から始める音楽 ❋ ひょうたんオーケストラプロジェクト21」

11／3（祝・土）13:00～／展示室A／入場無料

ひょうたんアーティストの奥田扇久さんをお迎えして、ひょうたん楽団による演奏会を催します。奥田さんは'90年頃からひょうたんの栽培を始め、'95年頃にはそれで楽器を作り、10年前からオーケストラプロジェクトを開始。今はその活動を一旦休止して、ひょうたん栽培や楽器制作、演奏やワークショップと多方面に活躍されています。
今回は、栽培ワークショップから関わったメンバーによる楽団結成、さて、ひょうたんから何が飛び出すか！　乞う御期待です

シンポジウム「今、問われる 文化施設の使命とは」

～芦屋市立美術博物館から大阪府立現代美術センターまで～

11／9（金）17:00～／入場無料／※下記会場で催されます。

会場：NS21ビル 9Fホール

中央区谷町3-1-18　現美センターの西隣、谷町筋向い、徒歩1分

近年、文化・芸術の環境が変わりつつあります。

各地方自治体は、指定管理者制度を導入し文化施設の運営を続々と切り替えています。その事が、どのような結果をもたらすかは、どのように評価して、育て関わって行くかにかかっています。
まずは、知る事からはじめませんか。わたしたちの文化・芸術のために。

◆指定管理者制度は、地方自治法244条の「公の施設」に関連する制度。行政改革により2003年6月改正、9月施行。各自治体では以後3年の間に、この趣旨に沿い条例が改正され、文化施設の運営見直しが迫られている。

第1部　講演

講演：小林真理

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。文化に関する法制度を中心に研究。最近では、国や自治体の文化政策に対して、よりよい政策の企画、立案、執行のありかたについて提言している。

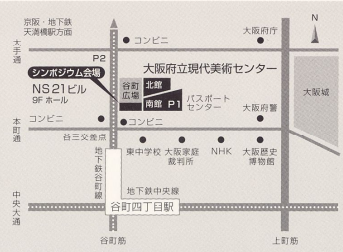
第2部　パネルディスカッション

小林真理（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）
加藤瑞穂（芦屋市立美術博物館学芸員）
木ノ下智恵子（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師）
川端嘉人（有限会社クリーン・ブラザーズ社長）
司会：原 久子（アートプロデューサー、大阪電気通信大学総合情報学部教授）

encore exhibition　瀬戸理恵子　展示室A

gallerism2006展の出品作家の中から『次回も見たいアーティスト』に来場者と参加ギャラリーの投票で選ばれた作家のアンコール企画展示『瀬戸理恵子展』が、展示室Aにて行われます。

制作と生活の境界が曖昧になって久しい。はたから見れば、私が部屋の片付けをしているのか、作品を創っているのか、ゴミを散らかしているのか、さっぱり判らないかもしれない。私自身ですら、日々段ボールにまみれていると、どの切れ端が作品になってどれがゴミ袋の中に入っていくのか判らなくなっていく。カッターで切られ、木工用ボンドで接着され、整然と積み重なっていく作品と、不揃いで無秩序に散乱していくゴミと、いったい何が違うのか、今はまだはっきり判らないでいる。使用済みの段ボールをもらって来ては、必要な長さに切る。折り目になっている部分は、使い物にならないので真っ先に除外していた。そんな工程を何年も続けたある日、その最も必要でない部分も作品になり始めた。今までいったいどれだけ捨て続けてきたのかと思うと悔やまれる。私は相変わらず彼らにもてあそばれ、作品とゴミの境界をさ迷わされているだけだ。いつでも見透かされている。彼ら段ボールは、何処からか何かを運ぶ為に用いられ、その役目を終えたところで私に出会い、加工される。作品という名のもとに人目に晒される彼らは、私の分身ではない。ある瞬間から彼らは私の手を離れ、はるか彼方へ行ってしまう。次に私を何処へ運んでいくかは、私の手の内ではない。彼ら次第である。その旅から置いて行かれない様に、今日もまた段ボールを切る。



● 交通機関　地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、1-A出口方向へ徒歩約3分。京阪電鉄「天満橋」駅下車、東出口から南へ徒歩約12分。
● 駐車場　専用の駐車場はありません。地図上P1ー大阪府第2駐車場、又は地図上P2ー市営谷町駐車場(地下)をご利用ください。両駐車場とも有料駐車場です。
● 大阪府立現代美術センターへは、「パスポートセンター」を目印にお越しください。
● シンポジウムの会場となる「NS21ビル」は、「パスポートセンター」の西隣です。

お問い合わせ　大阪府立現代美術センター
〒540-0008 大阪市中央区大手前 3-1-43 大阪府新別館　tel 06-4790-8520
http://www.osaka-art.jp/　E-mail info@osaka-art.jp